

平成20年度 第7回渡子小学校校内研修（道徳教育）

- ◆ 日時 平成20年10月7日(火)13:40～16:45
- ◆ 会場 渡子小学校5年生教室
- ◆ 参加者 渡子小学校教職員 音戸中学校(校長・道徳主任)

1 授業公開

主題名 自分にとって、友達にとって 2-(3)友情・信頼 1-(4)明朗・誠実

資料名 『けんたの迷い』

(出典:「道徳教育はこうすればおもしろい」北大路書房『われた花瓶』改作)

学習者 第5学年 男子9名 女子6名 計15名

授業者 第5学年担任(T1), 音戸中学校道徳主任(T2)



◆ 授業について

- 導入……自分にとっての友達とはどういうものを発表する。
- 資料提示…T1が資料について語り、T2が場面絵や短冊などを板書し理解しやすくすると共に、状況把握の時間短縮を図る。
- 展開前段…①花瓶がわれたことが、どうして帰りの会で問題になったのでしょうか。
②美咲が不安そうにけんたを見て、そのあとだまって下を向いたのを見て、けんたはどう思ったか考える。
③けんたは、言うべきか、言うべきではないか判断する。(中心発問)
- 展開後段…友達のことを思って、言おうか言まいか悩んだことはあるか、振り返る。
- 終末……T2の話聞く。

◆ 協議会

講師 東広島市立高美が丘中学校長 竹田敏彦先生

- 協議の柱——葛藤資料における効果的なTTのあり方について

- モラルジレンマディスカッションについて

価値分析表での1段階・2段階・3段階…は、教えるのではなく気付かせる。3つはどこが違うか。そこから葛藤が始まる。言うことも友情、言わないことも友情——何が美咲のためになるのかを、問うていく。



子どもから気のきいたキーワードは出ても、まだ気づいていない。その違いに気づかせていくことが大切。

- 道徳的論点(本当の友達とは何だ)を明確にすることが大切。

導入——道徳的論点に気づく。

展開——道徳的論点を明確にする。…拡散しているものを焦点化する。

中心発問前の基本発問は、価値の類型化である。

価値の類型化から価値葛藤の段階で「本当の友情とは」を考えていく。

- モラルジレンマの授業について

道徳的判断力重視のモラルジレンマは、道徳的心情重視でもある。思考のプロセス(美咲の心情を大切にしている)の前段でいかに心情を大切にしているかが、次なる価値判断と道徳的思考を深めることになる。

コールバーグ派によるモラルジレンマの指導過程を参考にして、道徳的思考力を深め、道徳的判断力を高めるモラルジレンマ授業の開発が望まれる。

モラルジレンマ……討議の中で価値を十分深めていれば、切り札を出さなくてもよい。

小学校であれば1段階・2段階・3段階の意見を出し話し合う…何が最善かと問うことで、3段階に落ち着いてくる。

終末で各自の最終の解決案とその理由を書く。1時間で即変わらなくても、1年間積み上げていけば、道徳性は発達してくる。(1段階が2段階に、2段階が3段階に…。)

まちがったモラルジレンマを展開して、無責任なオープンエンドにならないようにする。

- 資料について

善と善の価値が拮抗していなければ良い資料とはいえない。モラルジレンマにならない資料がモラルジレンマ資料として入っていることに、もう少し敏感であってほしい。資料をどう解釈していくか。(適さない資料・使ってはいけない資料がある。)

- TTの意義やあり方について

T1がT2に支えられる中で児童から目を離さないでいられる。(T1だけだと背をむけることが多い。)

T1(発問者)T2(板書)という単純な分け方でなく、中心発問にかかわって道徳的思考が深まる役割を果たすところに意味がある。(T1だけではできない。)

ワークシートに書かせる時、半数ずつ見る。(考えの把握)価値葛藤を深めるための前段の大きな仕事である。どの子が何段階かを想定しておく。T1・T2が机間指導の中で、情報収集し、次の手を打つ。

2つに分かれてのミーティングの時、何段階にだれがいたかを把握し、意図的指名に活用する。

(T2は、子ども達の発言が何段階にあたるかをT1に伝える。)

打ち合わせたことをベースに、1段階の代表的な考え、2段階の代表的な考え、3段階の代表的な考えを明確にし、発達段階の違いによる意図的指名によって、葛藤・討議の中で道徳的論点を明確にしていく。

なぜ中学校教師と小学校教師のTTなのか。

- ・ 中学校(中1)に小学生が行くので、小学校の子どものことを知ってもらう。
- ・ 中学校のことを知る。(中学校の話をしてもらう)
- ・ 中学校に行けば、知っている先生がおられる。(安心感)

- 子ども達の様子をみると、姿勢や集中力のすばらしさを感じる。新学習指導要領でいう「思考力・判断力・表現力」が育っており、言語活動も充実している。論理的表現力の域に達している。子どもの考え方を引き出すことができている。あとは出た意見をどうからませっていくかである。